

## 皮膚毒を有するハタ科魚類：アゴハタ *Pogonoperca punctata* の種子島からの記録

吉田朋弘<sup>1</sup>・高山真由美<sup>2</sup>・本村浩之<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

<sup>2</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### はじめに

皮膚毒を有するハタ科魚類として、ルリハタ *Aulacocephalus temminckii* Bleeker, 1854, キハツク *Diploprion bifasciatum* Cuvier, 1828, ヌノサラシ *Grammistes sexlineatus* (Thunberg, 1792), ジャノメ ヌノサラシ *Grammistops ocellatus* Schultz, 1953, およびアゴハタ *Pogonoperca punctata* (Valenciennes, 1830) などが日本近海に生息することが知られている(橋本, 1977)。そのうちアゴハタ(アゴハタ属)は、国内では八丈島, 小笠原諸島, 和歌山県田辺湾, 高知県, 鹿児島県, 屋久島, および琉球列島から記録されていた(瀬能, 2013)。また, Katayama (1960) は本種の分布を鹿児島県としたが, 詳しい産地等は不明である。

2013年5月23日に種子島の西之表漁港において, アゴハタが1個体採集された。本標本は種子島における本種の標本に基づく記録となるため, ここに報告する。

### 材料と方法

計数・計測方法は Randall and Baldwin (1997) にしたがった。標準体長は体長と表記し, デジタルノギスを用いて 0.1 mm まで行った。標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準

拠した。本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

### 結果と考察

*Pogonoperca punctata* (Valenciennes, 1830)

アゴハタ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 54606, 体長 234.3 mm, 鹿児島県西之表市田之脇沖, 30°41'N, 131°05'E, 釣り, 2013年5月23日, 高山真由美(種子島漁協市場で購入)。

記載 背鰭棘数 8; 背鰭軟条数 12; 臀鰭棘数 3; 臀鰭軟条数 8; 胸鰭軟条数 18; 腹鰭棘数 1; 腹鰭軟条数 5; 総総鰓数 10 + 12 = 22; 櫛歯状に発達した鰓耙数 2 + 8 = 10。

体各部測定値の標準体長に対する割合 (%) : 体高 41.4; 体幅 16.6; 頭長 36.7; 眼径 6.8; 吻長 9.4; 両眼間隔(骨質部で測定) 6.0; 上顎長 17.9; 尾柄長 13.4; 尾柄高 14.6; 背鰭前長 46.0; 背鰭第1棘条長 6.1; 背鰭第2棘条長 12.0; 背鰭第3棘条長 12.6; 背鰭第4棘条長 11.9; 背鰭最長軟条長 13.2; 臀鰭前長 74.2; 臀鰭第1棘条長 3.5; 臀鰭第2棘条長 5.0; 臀鰭第3棘条長 4.1; 臀鰭最長軟条長 15.0; 尾鰭長 20.1; 胸鰭長 20.4; 腹鰭前長 38.2; 腹鰭棘条長 12.6; 腹鰭最長軟条長 19.8。

体は細長く, やや側扁する。吻端から前鼻孔直上までの背面は緩やかな曲線を描くように上昇し, 後鼻孔直上で凹み, そこから背鰭起部にかけての背面は緩やかに曲がる。口は大きく斜位で,

Yoshida, T., M. Takayama and H. Motomura. 2016. Record of *Pogonoperca punctata* (Valenciennes, 1830) from Tanega-shima island in the Osumi Islands, Japan. *Nature of Kagoshima* 42: 139-142.

✉ TY: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Pogonoperca punctata*. KAUM-I. 54606, 234.3 mm standard length, off Tanowaki, Tanegashima-shima island, the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan.

口裂は斜行し、主上顎骨後縁は眼前縁を越える。下顎に皮弁を有する。両顎は円錐歯が歯帯を形成し、歯帯の幅は前方が広く、後方は狭い。鋤骨と口蓋骨にも同様に円錐歯の歯帯がある。前鼻孔は短い管を有し、その先端が開孔する。後鼻孔は孔状で、眼前縁近くに開孔する。前鰓蓋骨の縁辺は円滑。前鰓蓋骨後縁に3本の棘がある。主鰓蓋骨に3本の棘を有する。鱗は小さく円錐状であり、皮膚に埋没している。背鰭起部は腹鰭起部の直上よりやや後方に位置する。胸鰭始部は背鰭起部直下よりやや前方に位置する。胸鰭先端は背鰭第4棘基底直下に位置する。臀鰭起部は背鰭第3軟条基底直下に位置する。腹鰭は短く、その先端は背鰭第5棘基底直下に位置する。尾鰭は円形。

**生鮮時の色彩** 体側上方は暗褐色であり、体側背面に5つの鞍状黒色横帯を有する。体側下方は淡い黄褐色で、暗褐色の斑模様が混ざる。体全体に小白色点が散在する。下顎先端に付属する皮弁は暗褐色で、小白色点が散在する。背鰭は黒褐色を呈し、背鰭第2棘中央から第4棘基部と背鰭第2棘先端から第5棘と第6棘の基部中間にかけては黒色を呈する。背鰭軟条は黒褐色であるが、鰭膜は白色である。尾鰭根本付近は体色と同様であ

り、2つの黒色斑を有する。尾鰭の根本付近より後方の軟条は黒褐色であり、鰭膜は白色である。胸鰭、腹鰭、および臀鰭の根本も体色と同じ色を呈し、各軟条は暗褐色であり、各鰭膜は白色である。臀鰭第2軟条直上に楕円形の黒色斑を有する。

**備考** 種子島から採集された標本は、臀鰭軟条数が8であること、体高が体長の41.4%であること、下顎に皮弁を有することから瀬能(2013)が記載したアゴハタ *Pogonoperca punctata* の標徴とよく一致した。

アゴハタ属はアゴハタとインド洋に固有の *Pogonoperca ocellata* Günther, 1859 の2有効種が知られている (Randall and Schraml, 2010)。また、Randall and Schraml (2010) は1990–1995年にドイツのウィルヘルム水族館で飼育されていた個体を *Pogonoperca* sp. として報告し、未記載種である可能性を示唆した。本報告に用いた種子島から得られた個体 (KAUM-I. 54606) は、*P. ocellata* と *Pogonoperca* sp. と比較して、尾鰭が丸みを帯びる (*Pogonoperca* sp. では、わずかに丸みを帯びる程度)、不對鰭と胸鰭の軟条部鰭膜が半透明 (*P. ocellata* では白色と茶色の大理石模様、*Pogonoperca* sp. では濃い茶色) であることから識

別される (Randall and Schraml, 2010)。

Katayama (1960) は鹿児島県から得られた 1 個体 (体長や詳しい産地は不明) に基づき報告をおこない、和名アゴハタを提唱した。その後、アゴハタは八丈島 (Senou et al., 2002), 小笠原諸島 (Randall et al., 1997), 和歌山県田辺湾 (瀬能, 2013)・白浜 (荒賀, 1985; 池田・中坊, 2015), 高知県 (瀬能, 2013), 大隅諸島屋久島 (Motomura et al., 2010), 奄美群島奄美大島 (Yamakawa, 1969)・江仁屋離島 (Suzuki, 1964), 沖縄諸島沖縄島 (吉郷・中村, 2003, 2008)・伊江島 (Senou et al., 2006)・久米島 (小川, 1991; 吉郷・中村, 2003) および八重山諸島石垣島 (荒賀, 1985) から記録されている。したがって、種子島から得られた 1 個体は、種子島からの標本に基づく初めての記録となる。また、本報告はこれまでの国内における本種の分布の空白域を埋めるものである。

Soapfish と呼ばれるアゴハタやヌノサラシは、皮膚毒を分泌することで、海水を泡だらけにして、他の魚を殺してしまう魚毒性を有する (橋本, 1977)。さらに、アゴハタの皮膚毒とヌノサラシの皮膚毒の成分は類似していることが知られている (橋本, 1977)。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、標本の採集に際しては、種子島漁業協同組合の関係者の皆さま、標本の作製・登録作業などを手伝ってくださった原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまに厚く御礼を申し上げる。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイバビリティの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェク

ト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

## ■ 参考文献

- 荒賀忠一. 1985. アゴハタ. P. 153. 小西英人 (編), さかな大図鑑. 週刊釣りサンデー, 大阪.
- 橋本芳郎. 1977. 魚貝類の毒. 東海大学出版会, 東京. xii + 377 pp.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相—行動と生態に関する記述を中心として—. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, (16): 1-177.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- Katayama, M. 1960. Fauna Japonica Serranidae (Pisces). Tokyo Electrical Engineering College Press, Tokyo. 189 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Motomura, H., Kuriwa, K., Katayama, E., Senou, H., Ogihara, G., Meguro, M., Matsunuma, M., Takata, Y., Yoshida, T., Yamashita, M., Kimura, S., Endo, H., Murase, A., Iwatsuki, Y., Sakurai, Y., Harazaki, S., Hidaka, K., Izumi, H. and Matsuura, K. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pp. 65-248 in Motomura, H. and Matsuura, K. (eds.), Fishes of Yaku-shima Island - A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 小川真司. 1991. 久米島の海. I. O. P. Diving News, 3 (1): 6.
- Randall, J. E. and Baldwin, C. C. 1997. Revision of the serranid fishes of the subtribe Pseudogrammina, with descriptions of five new species. Indo-Pacific Fishes, 26: 1-56, pl. 1.
- Randall, J. E., Ida, H., Kato, K., Pyle, R. L. and Earle, J. L. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. National Science Museum of Nature and Science Monographs, (11): 1-74, pls. 1-19.
- Randall, J. E. and Schraml, E. 2010. Notes on soapfishes (Serranidae: Grammistinae), with a pictorial review of the genus *Pogonoperca*. Aqua, International Journal of Ichthyology, 16 (1): 1-6.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. Pp. 757-802, 1960-1971. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Senou, H., Kodato, H., Nomura, T. and Yunokawa, K. 2006. Coastal fishes of Ie-jima Island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), 35: 67-92.
- Senou, H., Shinohara, G., Matsuura, K., Furuse, K., Kato, S. and Kikuchi, T. 2002. Fishes of Hachijo-jima Island, Izu Islands Group, Tokyo, Japan. Memoirs of the National Science Museum, (38): 195-237.

- Suzuki, K. 1964. Results of Amami-Expedition. 2. Fishes. Report of the Faculty of Fisheries, Tsu, Prefectural University of Mie, 5: 153-188.
- Yamakawa, T. 1969. Additional records of marine fishes from Amami (III). Reports of the Usa Marine Biological Station, 16 (2): 1-18.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (4): 31-75, pl. 1.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2008. 庄原市比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. 庄原市比和町立自然科学博物館標本資料報告, (8): 1-111, pl. 1.